

C 資料

C-1には共通語をもとにした文法形(カテゴリー)のリストを掲げ、C-2には歴史的観点を規準にした動詞の語彙リストを掲げる。C-1は、文法形のリストとしているが、実際には、文法カテゴリーのリストである。動詞なら「書く」、形容詞なら「高い」、形容動詞なら「静かだ」をもとに具体的な文法形を掲げた。方言により諸種の助詞や助動詞が現れ、また、それぞれに応じた活用形が見られるであろう(また、中にはその方言で無効な文法カテゴリーもありえる)。それらを具体的に引き出すための材料である。

それぞれのリストに挙げた項目には次のようなカタログ名を与え、頭から順に番号によりコード化している。

文法形(C-1)

動詞(VC = Verbs Categorical catalogue)

形容詞(AC = Adjectives Categorical catalogue)

形容動詞(AVC = Adjetival Verbs Categorical catalogue)

語彙(C-2)

動詞(VL = Verbs Lexical catalogue)

形容詞(AL = Adjectives Lexical catalogue)

形容動詞(AVL = Adjetival Verbs Lexical catalogue)

ただし、語彙リストは今回は動詞のみを掲げている。

C-1とC-2を組み合わせることで具体的な文法形 = 項目(調査項目)が形成される。したがって、それぞれの項目はそれぞれのリストのコードの組み合わせで次のように指定することが可能である。

項目コード = 語彙コード + 文法形コード

動詞 = VL + VC

形容詞 = AL + AC

形容動詞 = AVL + AVC

Bの項目でこの具体的な適用を参照することができる(ただし、形容詞と形容動詞の語彙コードは暫定的な番号である)。なお、C-1とC-2のリストをもとにBの項目を作成しているためBとCには重複がある。

また、リストには最優先(**)、優先(*)を提示した(語彙リストは優先(*)のみ)。

なお、本資料のうちC-1は、国立国語研究所旧言語変化研究部第1研究室が1984年に行った記述調査の調査票に依拠するところが大きい。また、小西いずみ氏より文法形と語彙の各データに追加的提供という形での協力を得た。